

## 21世紀型の世界を生きる創造的で論理的な児童・生徒を育てる 英語教育の在り方について

石川美佐子<sup>\*1</sup>・桑原 里美<sup>\*2</sup>・梅本 陽翼<sup>\*2</sup>・後藤 大雄<sup>\*3</sup>  
高橋 俊章<sup>\*4</sup>・松谷 緑<sup>\*4</sup>・藤本 幸伸<sup>\*4</sup>・猫田 和明<sup>\*4</sup>

How to Implement 21st Century Skills in EFL English Classrooms :  
Focusing on Developing Problem-Solving and Logical Thinking Skills

ISHIKAWA Misako<sup>\*1</sup>, KUWAHARA Satomi<sup>\*2</sup>, UMEMOTO Yosuke<sup>\*2</sup>, GOTO Daiyu<sup>\*3</sup>,  
TAKAHASHI Toshiaki<sup>\*4</sup>, MATSUTANI Midori<sup>\*4</sup>, FUJIMOTO Yukinobu<sup>\*4</sup>, NEKODA Kazuaki<sup>\*4</sup>  
(Received August 6, 2021)

キーワード : 21<sup>st</sup> Century Skills、EFL English Classrooms、Logical Thinking Skills

### はじめに

現在、Society 5.0 社会に対応した人材育成が必要となって来ている。小学校の児童、中学校の生徒1人に1台のPCと、全国の学校に高速大容量の通信ネットワークを整備し、多様な子どもたちに最適化された創造性を育む教育を実現する GIGAスクール構想が推進されようとしている。残念ながら、現段階の附属学校園のICT環境はまだ運用レベルの点では十分に整っているとは言えないが、21世紀を生きる児童・生徒が必要とする能力は、そのような状況においても、身につけて行く必要がある。

本研究では、ICT環境が整っていない、ごく普通の環境において、Society 5.0 などに表される21世紀型の世界に生きて行く児童・生徒を育てるにはどのようにすれば良いかについて、特に、論理的思考力について検討を行った。また、論理的思考力は、高次的な認知能力であり、小学校段階において英語の授業の中で指導することは困難と考えられる。そのため、本研究では、小学校段階では、英語の教科特有で指導するものと複数の教科で共通に育てなければならない汎用的な能力の指導の在り方について検討を加え、具体的な方法とその効果について検証した。

### 1. 21世紀型人材を育成する英語教育の在り方について

#### 1-1 本研究の目的

本研究で目指す生徒像は、これまでに経験したことのないような課題や問題に関して、解決方法を自ら考え、調査した情報・データを整理・分析したり、調査結果を発表し、それに関して生徒同士が意見を交換できるような生徒である。発表の仕方も論理的で、表や図で根拠や事例を視覚的にわかりやすく示すなどの能力が必要となる。あるいは、児童・生徒同士が意見を寄せ合って、アイデアを練り、まったく考えたこともなかったような解決策を見いだすといった創造的な能力も必要となる。

授業時間の制限がある中で、問題解決能力、調査能力、論理的な発表能力、コミュニケーション能力といった能力を身につけることができるようにするためには、小学校から中学校まで、異なる発達段階に応じて、段階別に系統だって指導を行うことが必要となる。また、英語の教科固有で指導する部分と他の(複数の)教科の指導と連携して汎用的に育てる部分について検討し、時間的な制限、生徒の発達段階等を考慮して、適切な方法で将来必要となる能力の育成方法を検討する必要がある、そのことを本研究の目的とした。

\*1 山口市立小郡中学校(前 山口大学教育学部附属山口中学校) \*2 山口大学教育学部附属山口中学校  
\*3 山口大学教育学部附属山口小学校 \*4 山口大学教育学部英語教育選修

## 1-2 「21世紀型人材育成に必要な能力」に関する共通理解

本研究のメンバーが一緒に集まって会議をしたり、メール等で互いに意見や疑問を交換することにより、英語における「21世紀型人材育成に必要な能力」に関する共通理解を深めた。具体的には、世界経済フォーラム (<https://widgets.weforum.org/nve-2015/chapter1.html>) で、21世紀型人材育成に必要なものとして提案された16の技能、①基礎技術 (foundational skills) (読解力、数学リテラシー、科学リテラシー、ICTリテラシー、財政リテラシー、文化および市民リテラシー)、②能力的資質 (competencies) (批判的思考/問題解決能力、創造性、コミュニケーション能力、協力能力)、③人格的資質 (character qualities) (創造性、主導性、一貫性/チャレンジ精神、適応力、リーダーシップ、科学および文化的素養分析的思考)、問題解決能力、クリティカルシンキング (異なる考えの利点と欠点を論理的に判断) のうち、特に、論理的思考力が大切であることを確認し、論理性・説得力を持って「話すこと (やりとり)」ができる指導のあり方について焦点を当てて指導のあり方を検討することとした。

また、同様に、ATC21s (Assessment and Teaching in 21st Century Skills) (<https://resources.ats2020.eu/resource-details/LITR/ATC21s>) という国際団体が、21世紀型人材育成に必要な資質として提唱している能力、①思考の方法 (創造性とイノベーション、クリティカルシンキング (批判的思考) ・問題解決・意思決定、学び方の学習・メタ認知 (認知プロセスについての知識)、②仕事の方法 (コミュニケーション、コラボレーション)、③仕事のツール (情報リテラシー、ICTリテラシー)、④社会生活 (市民性 (ローカルとグローバル)、キャリア設計、個人的・社会的責任 (文化についての理解と適応) ) の中で、特に、①の思考の方法に関わる能力の育成について本研究では取り扱うこととした。

## 2. 小学校高学年の段階での指導

小学校の段階では、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を行うこととされている。また、21世紀型人材育成の観点から、わかりやすく自分の考えを伝える能力や論理的思考力の素地を身につけさせることが重要となる。ただし、論理的思考について指導する際には、抽象的なメタ認知プロセスに関わること、また、論理的思考力自体は、複数の教科をまたいで育成する汎用的な能力であることから、外国語の授業内だけの指導にとどまらず、他教科と連携して指導を行うことが必要である。また、児童の主体性を大切に、目的や聞き手のことを考えて、意見を伝えることを促すため、課題の設定は児童生徒が取り組む必然性を十分意識できるようなものにするように配慮した。

具体的には、①Yamaguchi-city has 3 good points. First, … のような形式で教師によるナンバリングを用いたモデルトークを提示し、全体→部分といった論理的な流れで発表を行うことを児童に意識させることができた。

②次に、山口市の紹介を国際交流員に聞いて頂く際に、どのような観点でアドバイスをもらいたいかを児童に考えさせるようにした。児童からは、文化的に失礼な表現ではなかったか、きちんと伝わったか、表情や言い方は良かったか、などの観点でアドバイスを受けたいという意見がでた。どのような観点でアドバイスを受けたいかを児童自身に考えさせることによって、児童は山口市の紹介を行うとき、どんな点に注意すれば良いのかを聞き手の立場に立って考えることができるようになった。



③最後に、論理的な伝え方やわかりやすく伝える方法には普遍的な要素、あるいは、外国語と日本語で共通の要素があるため、それを活用することにした。具体的には、国語科と連携し、事実を伝える言葉と印象を伝える言葉を国語の時間に意識させた。英語でも同じように、事実を伝える言葉（例：We have uiro.）と印象を伝える言葉（例：It is yummy.）があることを指導することにより、わかりやすく聞き手に紹介することができることを効率的に認識させることができた。



## 2-1 考察

どのような内容をどのような方法で伝えるかは、本来、誰に何の目的で話すのかが明確になっていなければ判断できない。残念ながら、外国語の実践において、コミュニケーションの目的が明確にされないまま、会話のやりとりや発表の練習が行われる事例が多々あるのが現実である。本実践においては、山口市の魅力を山口のことを知らない外国からの訪問者に発信することと、その相手に山口の魅力を伝えることが目的として設定されている。そして、そのことが相手意識をもちながら英語を使うという姿勢を児童に持たせることにつながったと考えられる。21世紀型人材育成の観点から言えば、意見や考えを、全体的な主張・意見→個別の理由や例の流れでFirst, second などを用いて伝える能力、事実+印象の組み合わせで、ある事実に関して、どのようなコメントを持っているかをわかりやすく伝えるプロセスについても指導している。単に会話を覚えて再生するのではなく、多少英語の間違ひはあっても調べたり考えたりしながら内容的に豊かなやり取りをすることで、英語を使って伝えたいことを表現するように児童に促しており、児童の達成感も高める実践だったと考えられる。

## 2-2 課題

この単元の学習を通して、育成する資質・能力を意識しながら学びをすすめる子どもの姿はみられたが、外国語科に固有の指導すべき資質・能力である英語の発音や語彙、文構造など知識・技能面の育成が十分でなかったように思われる。教科書で提示されている言語材料を参考にしながら、知識・技能面が確実に定着していくように、今後は「書くこと」も含めて消えていく音声を確実に記憶にとどめて、活用できるように、子どもたちの学びを充実させていく必要があると感じている。

## 3. 中学校1年生の段階での指導

中学校1年生の段階の目標として、考えや気持ちを整理し、論理的に「話すこと（やりとり）」ができる生徒を育てることとした。これまでの実践においては、「話すこと（やりとり）」をテーマに研究してきたが、目的は会話の継続であり、論理的な会話のやりとりではなかった。論理的な会話のやりとりができるためには、自分の意見が言えること、また、意見に加えて理由も述べる必要がある。中学校1年生の段階では、これは決して容易なことではないため、段階を踏んで指導を行った。具体的には、（1）ステップ1：自分の話を伝える、（2）ステップ2：相手の話を聞く、（3）ステップ3：第三者の話を聞いて、自分の思いや考えを伝える、（4）ステップ4：自分の思いや考えに理由をつけて伝える、の4段階で指導を行った。ステップ1では、28枚のイラストカードをヒントに、自分のことについて伝える活動を行った（例：I like dogs. I have two dogs. I play soccer.）。ステップ2では、相手の話に対して反応をするための6つの方法と表現（①話しかける、②褒める、③聞き直す、④繰り返す、⑤つなぎ言葉、⑥相づちを打つ）を指導し、聞き手の発話に何らかの応答をするように促した。次に、ステップ3では、トライアングルトークの方法を用いて3人で会話を続けて行くことにより、1人の聞き手だけでなく、別の聞き手にも、関連した質問をしたり、How about you? や What do you think? を用いて、話を振ったりすることで、会話を展開できるように指導した。以下のトライアングルトークは、Sunshine（開隆堂）

English Course1 Program 6 (ビッグベンからベーカーストリート駅まで3人の登場人物が会話している内容)に基づいている。生徒達は、教科書には書かれていない3人の会話を想像したり、登場人物の性格や趣味に合致する会話を即興で考えたりして、本人になりきって会話を行った。

【トライアングルトークによる即興スキットをノートに書きだしたもの】

【生徒の会話】 英文は教科書本文、太字は生徒のオリジナル(原文ママ)

A: **Wow! Beautiful! That's tower is very tall.**  
B: **It's Big Ben. It's a clock. That's tower is very famous.**  
A: **Look! I know that's red bus. Harry Potter's movie.**  
B: **Yes. That's a London bus.**  
A: London is a wonderful city.  
B: Thank you. We have a lot of interesting places. Look! That's Matt.  
A: Hi, Matt. **Nice to meet you. I'm Yuki. I'm from Japan. Judy always talks about you.**  
B: Matt is a Sherlock Holmes fan. He knows a lot about Sherlock Holmes.  
C: Hi, Yuki. **I'm Matt. Do you like Sherlock Holmes? I like him very much.**  
A: **Umm. I don't know about Sherlock Holmes. Tell me.**  
C: **OK. Then, let's go to Baker Street by tube.**  
A: **Tube? What's that?**  
C: **Tube is a train.**  
A: **Oh, I see. (空を見ながら・・・) It's beautiful sunny today.**  
C: **It's usually cloudy in London. But it's sunny today.**

最後にステップ4では、例えば Are you happy? という質問に対して、Yes や No で答えたら、Why? で理由を尋ね、聞き手が Because I can go to school. I can meet my friends. I can talk with them. のように理由を述べるように促した。中学校1年生にとって、即興で思いや考えに理由を添えて述べることは簡単なことではないが、4つの段階を踏んで指導することにより、広がりのある会話ができるようになった。

### 3-1 考察

中学校1年生を対象に行った実践では、(1)ステップ1: 自分の話を伝える、(2)ステップ2: 相手の話を聞く、(3)ステップ3: 第3者の話を聞いて、自分の思いや考えを伝える、(4)ステップ4: 自分の思いや考えに理由をつけて伝える、の4つのステップを踏むことで無理なく段階的に指導を行うことができたと考えられる。論理的で説得力のあるやりとりを目指すといっても、具体的にどのように指導をすればわからないと戸惑う先生が多いと思われるが、この実践では、中学校1年生段階の生徒にとって、無理のない指導を段階的に行っていたと考えられる。また、第1ステップは書かれたものを読み上げるのではなく、絵やキーワードのみを手がかりに自分の力で伝える指導となっており、論理的で説得力のあるやり取りの基礎を育成することができたと考えられる。さらに、第3ステップでは、教科書の登場人物になりきって、会話を自由に膨らませていく創造的な活動になっていたと考えられる。最後の段階で行ったAre you happy? の後に、意見を理由を添えて述べるという活動に関しては、本物のインタビュー動画を活用して場面設定がされていたため、生徒は自分がまるでインタビューされているような疑似体験を経験できたのではないかと考えられる。

### 3-2 課題

「話すこと(やり取り)」を通して、論理的思考力を向上する指導として、自分の話を述べる練習、ペアで会話を続ける練習、3人でテーマに沿って会話する練習、そして、理由の根拠を述べたり共感したりしながら会話を続け、広げる練習とスモールステップで段階的に指導を行った。「話すこと(やり取り)」の取組の成果をパフォーマンステストとして、ランダムに組まれたペアで2分間のペアトークを行ったが、テー

マについて会話する中で、なぜそう思うのか、理由や根拠を述べながら会話したり、理由を問うたりするペアが多かった。しかし、相手の意見に納得したり共感したりすることは簡単だが、根拠をもって反論を表現することが非常に困難だと感じた。道筋を立てて、「自分はこう思う」と述べることは、自分の考えを整理して適切な英語で述べる練習が必要である。今回の実践を通して、即興で会話を行う中で、相手に納得してもらったり、共感してもらったりするためには、まず自分の考えを伝える力をつける必要があり、少ない語彙、語句の中で言葉を繋ぎながら会話をする指導を継続する必要がある。そして、今後は、同意や反対を表す表現を学びながら、思考を整理して話すことができるような思考ツールを活用することで、より深い内容の会話ができることを期待したい。

#### 4. 中学校2年生の段階での指導

中学校1年生段階までの指導により、自分の思いや考えに理由を付け加えて述べることは達成可能だと考えられる。中学校2年生の段階では、より説得力のある会話（やりとり）ができる生徒を育てることを目標として設定した。また、やり取りだけでなく、やり取りの内容が理論的に噛み合うことを目指した。指導方法としては、ディベートを用い、各テーマ（例：Which is better, school lunches or boxed lunches?）に関して、利点(good points)と欠点(bad points)を考えさせた。

クラス全体で討議する中で、理由として、個人的な好みや嗜好は利点や欠点の理由や根拠としては説得力に欠けるのではないかといった議論が出たことで、一般的な事実（データ資料）を挙げるのが重要だと認識することができた。

そのような認識に至った段階で、今度は、以下のようなデータ資料を提示ののち、別のテーマ（例：Which is better to

good points (A)	A	bad points (A)
<ul style="list-style-type: none"> <li>所要時間が短い</li> <li>景色がきれい</li> <li>車内販売</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>高い</li> <li>トラブルが多くおこる</li> </ul>
good points (B)	B	bad points (B)
<ul style="list-style-type: none"> <li>早い</li> <li>ねれる</li> <li>人が少ない</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>時間がかる</li> <li>よ</li> </ul>

go to Osaka, by Shinkansen or by bus?)（注：右の表で(A)は新幹線派、(B)はバス派の意見）でディベートを行い、料金や時間など具体的な根拠を挙げながら利点・欠点を討議した。

The image shows a screenshot of a Japanese train ticket and schedule page. At the top, it displays ticket information for a route from Shinjiko (新山) to Osaka (大阪). The ticket price is 12,320 yen, and the total cost including taxes is 24,640 yen. The travel time is 2 hours and 5 minutes. Below this, there is a calendar for the month of March, showing the dates and the corresponding fare for each day. The bottom part of the page shows a detailed train schedule with station names and times for various services.

伝えたいことがあっても、それをどう英語で言えばよいか分からなければ、活発なディベートにはな

らない。そこで、利点・欠点で挙げられた内容のうち、英語でどのように表現したらよいか悩むものについては、辞書も活用しながらその英語表現についてクラス全体でシェアした（例： You can buy food on the train. / You don't get seasick. など）。

また、ディベートを始める前に、自分の考えの伝え方や反論の仕方、付け加えや意見を求める言い方などを確認し、口頭練習を行った（以下の表参照）。

#### 最初に意見を述べる

I think \_\_\_\_\_ A/B \_\_\_\_\_ is better (than \_\_\_\_\_ B/A \_\_\_\_\_ ) because \_\_\_\_\_ ★ \_\_\_\_\_.

#### 反論する

I don't think so. / I don't agree with you.

You think \_\_\_\_\_ ★ \_\_\_\_\_, but \_\_\_\_\_ . I think \_\_\_\_\_ .

#### 同じグループの人の意見に付け加える

I agree with you, ○○-san. And I have another reason. (I think) \_\_\_\_\_ ★ \_\_\_\_\_.

#### 意見を求める

What do you think, ○○-san?

Do you have any opinions, ○○-san?

自分の考え方の伝え方、反論の表現、付け加えや意見を求める表現などを押さえた後、次の段階として、互いのディベートを見合って、ジャッジする活動を行った。その際、ジャッジの理由を挙げるように指示することにより、生徒が論理的で説得力のある展開はどのようなものかを考えることになり、その後のディベートに活かそうとする様子が見られた。

### 4-1 考察

中学校2年生を対象に行った実践では、普通のおしゃべり (Small Talk) から一歩進め、論理的に、説得力を持って話す (やりとりする) 力を育てることが目標として設定されていた。個人的な好き嫌いに基づくやり取りではなく、論理的・批判的な視点をもちながら、メリット (good points)、デメリット (bad points) を整理し、意見交換を行うことができていたと考えられる。また、審判役の人にディベートの勝敗判断の理由を述べさせることによって、説得力を増すためには何が必要か考えることを促していたと思う。データに基づく主張、論理的な一貫性、矛盾点への疑問などに目を向けながら英語を話す練習を行う経験は21世紀型の学力を育てる上で有益だと考えられる。

### 4-2 課題

与えられた論題に対して、メリット、デメリットを挙げ、それぞれの立場から自分たちなりに意見を言うことはできた。しかし、相手の論点を明確にし、その論点から逸れずに、矛盾点を突くような反論をする姿は少なかった。ディベートに必要な技能は、普段からの下地づくりが必要であると感じた。Small Talkのトピックとして、メリット・デメリット両面の立場に立って考えやすい論題を設定し、ミニディベートとして練習を重ねていくことで、社会的話題についても論理的に考え、説得力をもって伝えられる力を培っていくことが必要と考えられる。

## 5. 中学校3年生の段階での指導

中学校3年生の段階の指導として、論理的で説得力のあるやりとりができる生徒を目標として設定した。特に、自分の意見をデータ等の根拠や例を用いて、論理的に説得力を持って主張を行うこと、相手の意見や理由付けにかみ合う反論ができるようになることを目標とした。また、興味や関心のある事項や身近な事柄だけでなく、社会的な問題についても、論理的なやりとりができること、そして、議論の方法としては、ディベートのように勝ち負けを重視したものではなく、議論を重ねる中で協調的により良い解決方法を見い

だすことを重視したコンサルテーションを用いて行い、そのことによって、論理的思考力、説得力、問題解決能力、表現力などを生徒に身につけさせることを目指した。

例えば、中学校2年生の段階でも扱った Which do you like better, school lunches or boxed lunches? のテーマに関するディベートでは、メリット、デメリットを述べて互いの主張をするだけにとどめず、さらに相手の意見や理由付けにかみ合う反論を述べるように指導を行った。例えば、給食派の「できたての料理が食べられる」に対して、弁当派は「魔法瓶を使えば出来たての料理を食べられる」などの反

★A(School lunches) B(Boxed lunches) (3分)

A: Which do you like better, school lunches or boxed lunches?

B: I like boxed lunches better than school lunches., because I can eat the food which I like the best.

A: I know what you mean, but you should try the dishes you don't like.

I like school lunches better than boxed lunches because school lunches are freshly made.

B: I can understand your opinion, but I can use thermos bottle.

A: It's very expensive. I don't have many money. <← Others: Much money! >

B: You can ask to your mother to buy thermos bottle.

A: If I ask my mother, my mother very angry! . . . . Do you like mother?

B: Yes.

A: Did you...Have you ever used a thermos bottle?

B: No, I haven't. But I have some.

A: Why don't you use.... Why haven't you used your thermos bottle?

B: I don't know. My mother don't use it.

論を生徒が行っていた。さらに、給食と弁当のメリット、デメリットを全体で共有したのちのコンサルテーションでは、「週の半分はお弁当で半分は給食にしたら良い」という案や「昔は1日2食が基本だった時もあり、1日2食の方がむしろ健康的だと言われているので、お昼は抜くので良い」といった発想豊かな提案がなされた。

③ What can you do to make this situation better? (この状況をよりよくするためには)

to reduce the amount of plastic garbage? (プラスチックごみの量を減らす方法)

What can you do in your life? For example? (日常生活でできること、例)

③ reduce the amount of plastic garbage - 5Re

↳ refuse to get plastic bags in shops - join a volunteer

have my bag (made by cloth) → take my bag (which is made of cloth) to shops

don't throw the garbage away burning plastics → burning Naphtha

Then, to do these action, you can make this situation better.

(3) Self-Evaluation (自己評価 (次につながる反省を))

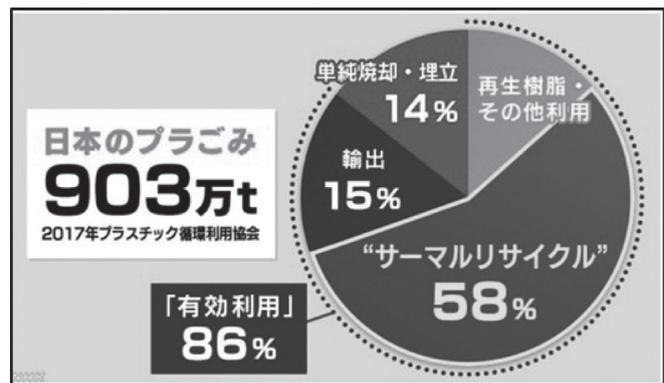
①Small Talk やごみ問題 で、自分の意見を理由や例を用いて説明できたか。 [ 1 2 3 ④ ]

②Small Talk やごみ問題 で、よりよい解決方法を考えて提案できたか。 [ 1 2 3 ④ ]

★学んだこと (内容や英語の表現などについてのメタ認知) や、自分の意見をよりよく相手に伝えるためにはどうしたらよいか (さらに向上するための自己調整) について書こう!

学んだこと...ごみ問題についての知識、解決方法  
よりよく相手に伝えるためには... 単語だけでなく、S.V. + to = full sentence を  
使う。 動詞 - 例 - 手紙の書き方

また、社会的な問題についての論理的なやりとりに関しては、プラスチックゴミを扱った教科書の題材 (Sunshine English Course 3のProgram8 “Clean Energy Sources”) を用いて行った。題材に関連する語彙の導入を兼ね、プラスチックゴミの問題に関して、写真・データをPPTで提示して、生徒の興味・関心を高めるようにした。その後、Jigsaw Reading タスクを用いて本文の内容理解を深めた。その後、次の時間で、プラスチックゴミの問題に係る現状を数値デー



タや具体的な事例をPPTで紹介した後、プラスチックゴミ問題の解決方法として（他人ごとではなく）私たち自身ができることがないかをペア、グループ、クラス全体の順で考えた。その結果、We can join a volunteer to save the sea. For example, pick up garbage.や We can use our own bag. あるいは、5Rs (recycle, reuse, reduce, repair, refuse) などの意見が出た。生徒の意見の中には、プラスチックの製造に関する科学的知識に基づいたものまであり、想像以上に活発な意見交換ができた。

その他、Which do you like better, a robot dog or a real dog? では、データや情報など客観的な根拠や具体的な例に基づいて、論理的で説得力のあるやり取りを行うように指導した。その際、最初にある程度、トピックに関連する情報や、議論の際に必要な基本的な語句や表現を指導するようにした。そのことで、トピックについてどのようなことを調べたら良いかの見通しを生徒に与えることができた。また、相手の意見に理解を示しつつ、自分の意見を述べる表現（例：I understand what you mean, but …）など、意見の交換に必要な基本的な表現を事前に押さえ、議論のやりとり（内容）に集中できるようにした。

授業では、クラス全体で Sharing を行い、振り返りを行うことを大切にしたい。そのことにより、学習したこと（テキストの内容に関する理解、英語の表現、自分自身の成長に関する気づきやメタ認知）や、自分の意見をよりよく伝えるための方法（目標や理想像に近づきさらに向上するための自己調整の方法）について、より気づきを深めることができるようにした。具体的には、①手本となるよい例を示す、②どのような表現を使えば良かったかをペアやグループ、クラス全体で考えさせる、③同様の活動を何度かくり返す中で体験的に気づきを促す、④自分の会話を動画で振り返らせる、⑥他者からの気づきや助言を得る、⑦教師が生徒の発言に対して発問や問い返しを行うなどが考えられる。以下は、Sharing の機会を通して得られた生徒の気づきの一部である。

#### 【生徒の感想より】

- ・学んだことは、プラスチックゴミ問題についての知識や解決方法。よりよく相手に伝えるためには、単語だけでなくS、Vがそろったfull sentenceを心がけること。意見→例→まとめの構成や順番で話すこと。
- ・具体的な数値を出したり、ジェスチャーを入れたりして話すことが、自分の意見を相手により伝える方法だと思った。たとえ、言いたいことの単語が分からなくても、それに関する単語を並べたら相手にも伝わると思う。
- ・自分の意見に理由や例を用いて説明することで、より説得力をもつことができるし、より身近に考えられるので自分の言いたいことが相手に伝わりやすくなると思った。
- ・be related to～などの語句を学んだ。より相手に分かりやすく説明し、向上するためには、まずは内容に関する語句を知り、文の構成に注意したい。主語と動詞が合っていないことがあるので、そこを意識したい。
- ・プラスチック問題が海洋生物に影響を及ぼすので、人間にも害が及ぶ問題だと思った。私たちにできることは何か、どんなことを大切にしていこうとよいのかを考えることができた。「5Rs」は今からでもすぐにできることなので実行していきたい。最初のSmall Talkとも関連するが、自分ができることとして「お弁当箱もプラスチックでできているので木で作ったものに変える。」をどう表現すればよいか分からなかった。
- ・今日はさまざまな課題に対してより良い提案を考えたのですが、全て一から自分で考えるのは難しかった。そして、その表現を言えるようになるためには、今までに習った文法や語句をフル活用してもっと簡単な文に言い換えることが必要だと思った。
- ・「プラスチックを紙に変えるといい。」などの文は、It's good to～の構文や、replace ～ with～（～を～に変える）の語句などが分かったら意見が言える。その文をもっと簡単な文でYou can ～などの言い方にするといいのかもと思った。すぐに文が浮かぶようになり、文を作る力がとてもついたと思う。
- ・相手の意見とかみあう英語で会話することができた。自分の意見を一方的に相手にぶつけるのではなく、“That's true, but～.”と言うことで、さらに切り込んでいけるので話の内容が深まると思った。

## 5-1 考察

中学校3年生を対象に行った実践では、ディベートを行う際には、相手の主張や意見に対して、噛み合った反論を行う活動を行った。また、さらにペア、グループ、クラス全体で、互いの意見を交換する中で、まったく新しい、創造的な解決方法を一緒に見いだすこと（コンサルテーション）も行った。他の人と意見を交換しながら、これまで考えていなかったような解決方法を見いだそうとする活動は、21世紀型の人材を育てる上で重要な試みだと考えられる。また、日常的な話題や自分が興味や関心を持っている話題だけでなく、社会的な問題についても、自分の意見を根拠や具体例を示しながら議論できる能力も、今後ますます必要となっていくと思われる。ただし、社会的な問題を扱う場合、題材内容の難しさ、生徒の関心の低さや関連する情報に関する知識不足、語彙の難しさ、などのために、生徒にとって難易度が高くなる。そのため、扱う話題についてどのようにして興味や関心を持たせるのか、どのようにして、扱う話題が自分達の生活と関係しているかを生徒に実感させるのか、どのようにして具体的、論理的で説得力のある意見を述べるができるように指導できるのかなど、多くのことを検討する必要がある。今回の実践では、Jigsaw Reading タスクを活用して生徒の関与を高め、また、PPT等で写真等を用いて生徒の思考や問題意識を刺激・喚起し、生徒に当事者意識を持たせるようにしていたと考えられる。また、同時に、意見を考える上で参考となるデータや情報を提示したり、あるいは、意見を述べる上で必要となる英語表現を提供することで、（日常的な話題ではなく）社会的な問題について意見を述べる上での困難さを緩和していたと考えられる。

## 5-2 課題

ディベートを行う際、トピックによっては、メリット・デメリットが頭に浮かばず、話しにくい。そのような場合には、メリット・デメリットについて、個人、ペア、グループの順で意見を考えさせ、出て来たアイデアをキーワードで黒板に書き出していくと議論がしやすくなると考えられる。

また、議論をする際に、英語で言えなかった表現を、振り返りの時に全体で確認する（Sharing）のは、とても意味のある活動だが、時間がかかるのが課題となっている。

相手の意見に対して、噛み合う反論を行っている例が増えてはいるが、相手の意見をよく聞いていなくて、議論が噛み合っていないケースもまだ見られるため、相手の意見（理由や例）をキーワード等できちんとメモするように指導することが必要となる。さらに、自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見をいったん受け止めることも必要なため、“I understand what you mean, but ~.”など、議論のやりとりを進める上で必要な表現の指導が必要と考えられる。教員がモデルを提示しただけで、これらの表現を学習者が習得するのは難しいので、意識的な指導・練習が必要となる。また、練習を通して、議論に必要な基本的な表現を身につけておくことにより、生徒は議論の内容に集中することが可能になると考えられる。同様に、生徒が数値やデータを用いて、説得力のある理由や例を述べるには、述べ方を意識的に練習しておくことが必要だと考えられる。

タブレットなどICT機器を活用することにより、自分の意見や主張のポイントを、写真やデータ資料や具体例を根拠としてわかりやすく提示することが容易となる。また、静止画像、動画や音楽などを使うことで視聴覚や感性にダイレクトに訴求することができる。このような利点があることから、21世紀型人材の育成のため、今後、ICT活用をさらに推し進めることを検討したい。

## 6. プロジェクトの成果と課題

英語教育を通して、21世紀型の世界を生きる人材育成をどのように行うかについて附属（附属小学校の教員を含む）と学部教員が共通理解を深めることができた。また、それだけでなく、附属と学部の連携・協働も高めることができた。特に論理的でわかりやすい構成で発表したり、説得力をもって、論理的にやりとりができるようになるための指導方法について、附属・学部で協同的に検討することができた。

数年にわたって附属と学部の教員が共同して、新学習指導要領で求められる人材を育成するためにどのような教育を行っていけば良いかについて検討して来た。今回は、これまでに築いてきたメンバー間のつながりを活かしながらSociety 5.0 などによって示される新しい社会における人材像にあった指導について、特に、論理的で説得力のあるやりとりを実現する方法について検討できたと考えられる。

具体的には、小学校においては他教科での指導と連携することにより、全体的な主張・意見→個別の理由

や例の流れで生徒が無理なく発表することができることを示したのは大きな意味があったと考えられる。

また、中学校1年生の段階でも、自分の意見や主張に根拠や理由を付けて述べることは簡単でなく、スモールステップで指導することによってそれが可能になることを示していると思う。今回の実践では、①自分の意見を言う、②相手の意見を聞いて、反応したり、質問をする、③複数の人との会話の展開方法について学ぶ、④自分の主張や意見について、理由や根拠を尋ねられたときには、理由や具体例を述べるといった段階的な指導の必要性が示されたと考えられる。

中学校2年生の段階では、ディベートを用いて、意見や主張の論理性について考えているが、今回の実践では、個人的な好みや嗜好は理由や根拠として説得力が欠けるため、一般的な事実（データ資料）を基に議論を行うことの必要性に生徒自らが気づいた点が重要だと考えられる。また、議論を即興で行っていくためには、議論を行う上で必要となる表現をある程度学習しておく必要があるという点も重要だと思う。

中学校3年生の段階では、ディベートのように議論の勝ち負けを競うのではなく、互いに協議しながら、創造的で新しい解決策を発見するコンサルテーションの方法で指導を行っている点に意義があると考えられる。また身近な問題だけでなく、SDGs など社会的な話題について、データ等に基づいて議論をし、また、自分の問題として捉えて解決策を発表している点は、21世紀型人材に必要とされる問題解決能力の指導にもつながっているのではないかと思う。さらに、振り返り等による生徒の気づきから、生徒たちが、ATC21sが提唱している思考の方法（例： 学び方の学習・メタ認知（認知プロセスについての知識）など）についても学びを深めていると考えられる。

ただし、現在までのところ、学習者に与えられる課題は、教師から与えられたものが多いのが現状である。21世紀人材の育成では、自立的で創造的な学習者を育てていく必要があるため、プロジェクト型学習のように、児童・生徒が自らの課題に単独で、あるいは共同で取り組み、その課題解決（問題解決）のために、調査（情報・データ収集）を行い、成果（問題解決策）を発表し、聞き手との質疑のやり取りを行うような活動の可能性についても検討することが必要だと考えられる。また、21世紀人材の資質の1つとなっているICTスキルを活用して、情報を収集・整理したり、グループやクラス全体で思考を深めたり、他の人と意見を交換・共有したり、発表を行ったりする実践についても検討が必要だと考えられる。

## 参考文献

- 文部科学省（2017）：『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック 授業研究編2 外国語』  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/\\_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2017/07/07/1387503_2.pdf)  
（2021年8月5日 最終閲覧）
- 文部科学省（2018）：『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』
- 文部科学省（2018）：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』

## 付記

小学校の授業は2021年2月19日（金）と24日（水）に実施、中学校1年生～3年生の授業は、それぞれ2021年3月5日（金）、2021年3月15日（月）、2020年11月26日（木）に実施したものです。